

「第58回全国壮年大会（東京）のご案内」



本年夏の第57回全国壮年大会（北海道）も無事盛会裡に終わりました。来年2023年度第58回全国壮年大会は東京で開催されます。東京地方壮年連合は、全国壮年大会実行委員会を組織してその準備を致しております。

大会主題「教会が元気になるには」

主題聖句《人が独りであるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。》（創世記第2章18節）

開催期間：2023年8月25日(金)26日(土)の二日間、会場は、本年新会堂を献堂されました、大井バプテスト教会です。

大会の形式は、教会に集まって対面での開催を基本といたします。しかし、最近はオンライン会議形式も盛んになっており、そのメリットを生かし遠隔地在住の方や多忙な方々の参加を容易にするため、Zoomによるオンライン会議形式の併用を致します。概略の基本プログラムは、礼拝・主題講演・総

実行委員長 坂口 昌彦（目白ヶ丘）

会・パネルディスカッション・分団による討議です。主題講演は大会主題に沿って、講演題名『教会が「元気」になるには』と題して、西南学院大学教授 神学部長の『濱野 道雄先生』にご講演をお願い致しております。

信仰をする私達が置かれた今の時代は、価値観の変化と多様化や信仰者の減少など、私達バプテストのみならずキリスト教全体、更には世界全宗教の問題を抱えております。又、教会は、礼拝出席者の減少と教会離れ、信徒の高齢化と青年の減少、教会の経済的困窮そして牧師不在などの問題を抱えております。全国壮年の方々と共に教会の活性化や壮年ができる教会への奉仕など、教会が本当に元気になるには如何にすべきかを語り合ひましょう。

来年も多数の壮年は基より男女や年齢を問わず多数の方々のご参加を心からお待ち申し上げ、多数の方のご参加をお祈り致しますと共に大歓迎致します。皆様、来年は東京大会でお会いしましょう！

伝道者養成 & 教会形成

全国壮年会連合 NEWS

第123号
2022/10/20
発行

日本バプテスト連盟
全国壮年会連合
発行人：山田誠一
編集人：三室日朗
Topics Password ▶ sorengo

神学校献金(神学生奨学金献金) 振替00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

「『こんな事できません』では物事は進まない」 事務局長 三室 日朗（西南学院教会）



福岡地方連合壮年大会が開催した秋の研修会「信徒が担う教会の働き」で示唆に富む指摘を受けました。発題者は今春牧師招聘が叶ったI教会のK兄とS師、つい最近牧師招聘が叶ったH教会のN兄等に信徒が担う教会の働きについて忌憚なく語って頂いた。

- 信徒でもできること
 - ① 説教、② 主の晩餐式、③ 執事(役員)会等、④ 週報作成、⑤ 牧会的役割、⑥ 結婚式など
- 信徒では難しいこと
 - ① 葬儀、② 牧会の壁
- 無牧師を経験したからこそその成長
 - ① 祈祷会等で奨励をするCSの先生達が牧師の礼拝説教を前より深く聞くようになった。
 - ② 信徒の説教を受けて、牧師も更に神学的に説教の内容を深めることができる。
- 一歩進んで、外から牧師を招聘するのではなく、教会員の中から献身者を立て、神学校で勉強してもらい牧師として立ってもらおう。

- 考えさせられた事柄
 - ① 連盟の基準給よりも少ない額の牧師給しか提示できないので、牧師に兼業や兼職を求めざるを得ない教会伝道所がある。一方で牧師としての働きはフルタイムでお願いしており、その矛盾に気付いていない。
 - ② 説教の奉仕に当たる信徒に謝礼を渡すことについて協議した。
 - ③ 牧師に相談したいことがあって足を運ばれる新来者が、牧師不在と分かるのがっかりされる。外部の人にとって牧師の存在は大きい。
 - ④ 無牧師となり、外部から説教者を招いたが、説教全体を通して一貫性がないことに、数ヶ月後に気づき、教会の年間聖句、年間目標に沿ったお話を依頼するようにした。

この集会は無牧師の教会を担う信徒の働きがいかに大変なものであるか改めて知らされたものでしたが、これは単に福岡の問題ではなく、全国の教会伝道所や各地方連合の問題でもあります。このような集会在全国で持たれて教会形成の事を話し合う機会となることを祈ります。

2022年度全国壮年会連合総会【審議報告】 開催日 2022年8月27日(土)

NO	議案	結果	NO	議案	結果
1	2022年度総会議長選任の件(東京地方連合から)	承認	3	2023年度神学校献金(神学生奨学金献金)目標額設定の件	承認
	2021年度全国壮年会連合活動報告・決算報告・監査報告に関する件	承認	4	2022-2023年度全国壮年会連合活動計画書の件	承認
	1) 2021年度全国壮年会連合活動報告案 資料: 2021年度神学校献金・会費実績一覧	承認	5	2022年度全国壮年会連合一般会計修正予算案及び2023年度全国壮年会連合一般会計予算案の件	承認
2	2) 2021年度全国壮年会連合一般会計決算報告案	承認	6	2022-2023年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計画の件	承認
	3) 2021年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告案	承認	7	2022年度全国壮年会連合奨学金会計修正予算案及び2023年度全国壮年会連合奨学金会計予算案の件	承認
	4) 2021年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計収支報告 資料: 日本バプテスト連盟神学生奨学金会計決算報告	承認	8	第59回(2024年度)全国壮年大会担当地方連合の件(西九州地方連合)	承認
	5) 2021年度監査報告	承認	9	第58回(2023年度)総会議長の件(西九州地方連合から)	承認

文書による総会へのご協力感谢您、決定事項、課題をお伝えします。事務局長 三室 日朗

3年ぶりに対面による壮年大会をぜひ北海道の地で開催しようと、北海道の同信の友は早くから、その準備に当たっていただいていたが、第7波のコロナウイルス感染の余波を受け、今年も残念ながらオンラインによる壮年大会の開催となり、総会も昨年に引き続き文書による総会となりました。壮年大会に集ってくださる皆さんの健康のことを考慮しますと、これも止むを得ない結論であったと思います。

大会の運営に当たっていただいた方々、講演や説教の任を担っていただいた先生方に感謝いたします。会衆を前にしての講演とは違い、やりにくい面もあったかと推察いたしますが、無事に大会が終えましたことに深く感謝いたします。

また、連盟理事長から「2023年これからの伝道者養成基本理念」の説明を受け、参加者と率直な意見交換ができたことは大きな収穫だったと思っています。

近々総会報告書も出るようになりますが、北海道大会参加者は231名、代議員登録は167名、総会審議に参加された方は144名でした。なお、総会に提出した議案すべてを

賛成多数で承認をいただきました。ご協力を心から感謝します。承認された主なものを以下に示します。

- 2023年度神学校献金目標額は、昨年に引き続き2,500万円といたします。
- 次年度(2023年度)の壮年大会は、東京地方連合が担当します。
- 2024年度の壮年大会につきましては西九州地方連合に担当して頂きます。

今後の検討課題としましては、

- 総会のあり方について(文書による総会が定着するとすれば、今のやり方でいいか?)
- 連立立神学校に対する案件、具体的には今大会で発表した中間報告並びに協議の時間を持って話し合った件(2023年度版伝道者養成理念、および連立立神学校への支援の件)は、提案した内容で進めることで問題はないか。等について引き続き検討してまいります。

「神学生の証」

西南学院大学神学部修士1年 吉田睿監(推薦教会: 松本福音村)



まずは私共、神学生のために日頃から祈りに覚えてくださり、また献金によって支援していただき心より感謝申し上げます。

西南学院大学での学びは日々神学生としてのあり方、長い目で見れば将来神さまに呼ばれ遣わされる教会の牧師としてのあり方を何度も振り返り、見つめ直す貴重な時となっております。身体的に医療を通して人を救う医者ではなく、霊的にイエス・キリストの福音を通して人を救う献身者になるように指し示された私が西南学院大学に入った頃は、自分の信仰についても明白に答えることもできないような状態でした。まさに「荒野」を歩いているような感覚で、何もかもが目新しく、落ち着かず、恐怖すら感じるほどでした。修士1年となった今、私はその時よりは信仰も学び、生活も落ち着きましたが、この時だけ

からこそ学びにより緊張感を持って励みたいと思うのです。この学びは私個人にとどまることなく、これからの主の教会を共に作り上げていく、愛する神の家族たちとの関わりの中で実践的に現れるからです。

私の今後の抱負は、理想や思想の領域から抜け出し、実践や行動の観点から神学を考えていこうと考えております。特に神さまから与えられた信仰によって互いを励まし合い、愛し合うはずが、むしろ隣人を理解することができず、憎み合い、分裂が生じてしまう現代のプロテスタント教会の問題を取り上げつつ、信仰者が互いを理解し合い、和解していくために今日を生きる私たちに求められている信仰のあり方は何か、聖書が語る信仰の成熟は今日の教会に何を求めているのかという問いに真摯向き合い、研究していこうと思ひます。今後どうぞ私共をよろしく願ひします。



日本バプテスト連盟全国壮年会連合
〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

事務局執務: 月、水、金 10:00~16:00 ☎: fax: 048-886-7533 http://www.sonen.net sonen@bapren.jp

壮年大会での【「伝道者養成」に関する中間報告と協議】の議論を更に展開しよう！

全国壮年会連合役員会

壮年大会での【「伝道者養成」に関する中間報告と協議】のなかで、協議の時間は十分にはとれませんでしたが6名の方が発言して下さいました。その発言の概要は、11月に発行されます大会報告書に記載しておりますので、お手元に届きましたら目を通して下さるようお願いいたします。

役員会ではここでの発言を、今後の連盟理事会との協議に生かしたいと考え、発言頂いた方々に、協議の場で言い足りなかったことや、さらにテーマを深めたいという思いを是非原稿にして頂きたいとお願いをし、3名の方々に寄稿して頂きました。

以下に掲載しました原稿に、それぞれの発言の趣旨、思いが述べられています。またこのニュースの巻頭言には、最近福岡地方連合で行なわれた「信徒が担う教会の働き」と題して行なわれた研修会での内容が紹介されています。中間報告として連盟理事長が説明された「これからの伝道者養成基本理念2023年版」の内容は、まさにこの問題をそれぞれの教会、連合を担う一人ひとりが自分事として受け止め、考え、行動していくことを求めています。

2022年度も下期にはいり、役員会は次年度の計画をイメージしながら準備を進めます。教会や連合で話し合われた事柄をタイムリーに事務局宛に届けて頂けると有り難いです。

「地方連合と連盟の関係について」

川崎バプテスト教会 渡邊 亶



北海道における第57回全国壮年大会の「これからの伝道者養成検討に関する中間報告と協議」のプログラムの中で、私が、地方連合（以下、連合という）と連盟の立ち位置に関して質問させていただいたのは、～いささか質問の焦点がぼけて申し訳なかったのですが全国壮年会連合が連盟の奨学金制度の運営受託と充実などなど、感謝すべき足跡を数多く残して来られているのを深く認識したうえで、いま、連盟が財政の逼迫に端を発した改革に取り組んでいる時に、改めて連合と連盟の関係をより総合的、有機的なものに変えてゆけないかという思いがあったからでした。

1967年、#21連盟年次総会で13地方連合を公認した際、連合と連盟との関係に関する7項目の申し合わせでは（一部抜粋）、○連盟加盟教会は、協力伝道の充実を図るために地方連合に参加する。○地方連合は各教会・伝道所に対する推進活動及び連合独自の計画による諸活動の実施、連盟は地方連合単位での推進活動を行う、とあり、その後、1988年に開催した地方連合連絡協議会（前身、地方連合会長会）では（一部抜粋）、教会と連合の関係について、○教会は連盟に加入する場合と同様な協力の姿勢をもって、主体的に地方連合に加入することが望ましい。○協力と一致について、ア）連合内の各個教会は相互に自主独立の立場を尊重しつつ、一致して連合内の協力活動を形成していくことが望ましい。イ）異なった立場を排除したり、自己の閉鎖的な立場に固執して協力活動から後退するようなことは、相互の協力関係の中でいましめあうことが望ましい。連盟と連合との関係については（抜粋）、○連盟は「全国的な教会連合体」であり、地方連合は「限定された地域の教会連合体」である。○両者は共に教会を構成主体とするそれぞれ独立の共同体であって、組織的上下関係はない。両者は相互に主体性を尊重し、その活動領域の調整を図り、或いは相互の責任関係を明らかにしつつ共同の働きをする。さらに、地方連合連絡協議会の位置づけについて（抜粋）、同会は、連合相互の情報交換、交わり、及び連合と連盟の連絡協議の場であり、そのための共同の働き（相互補完的）をする機関である。と確認され都度再確認されてきている。

1988年、地方連合連絡協議会の最初の確認がされてから30年以上を経過し、連合、連盟の状況も多様に変化し、現在連盟が改革を要請されている今こそ、連合、連盟の関係を全体的に、より発展的に見直し、確認されてよいのではないかと考えています。（完）

「兼業牧師」と信徒の働き

那珂川キリスト教会 藤 寿



いま日本バプテスト連盟では、機構改革に取り組んでいますが、従来の活動の見直しが求められる状況になっているからです。そして、教会においても、教勢が落ちてきて従来の様には出来ず、見直しが迫られています。そして、1教会で専業の牧師を招聘することが難しい財政状況のために、「兼業牧師」を招聘するケースも出て来ています。兼業牧師の場合には、平日は他の仕事をして週末に牧師の仕事をするとなると、平日の教会の働きを信徒たちで担うことが求められます。また、福岡地方連合の教会では、近年牧師招聘の期間が、2～3年掛ることが複数の教会で見られます。この場合には、牧師が担っていた働きの全般を、信徒たちが分担する必要があります。例にあげれば、説教、礼典、牧会、結婚式や葬儀、代表役員の働き、その他。

献身者が減少している現状では、無牧師教会が増えてきて、なかなか牧師招聘が出来ない時代に入っていると感じてきています。そのような時代に、バプテストの教会として、信徒が教会の働きを担っていく在り方を、いま求められる時代に入っているとも考えられます。

日本バプテスト連盟には、西南学院大学神学部と東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校という学びの場があります。それぞれの神学校で、聖書学、説教、牧会学などのカリキュラムが用意されています。その学びを通して、教会の働きを担う信徒リーダーの養成が、これからのテーマとなっていくのではないのでしょうか。

『壮年大会を終えて』

釧路キリスト教会牧師 奥村 敏夫



先日開催された『全国壮年大会』の中で「これからの伝道者養成検討」についての報告と協議がZOOMで持たれ、私は時間切れ寸前に短くコメントしたが多少「消化不良」を感じていた。けれども幸い今回大会役員の方が親切にも「言い足りないことがあるのでは？」と、今度の「壮年大会連合ニュース」の中で追加の(?)意見表明の機会を与えて下さることになり感謝している。

協議の中で井東代表議員が語られた「無牧師状態になった時に、信徒が礼典執行をするなど考えられないし、教会の合併・統廃合で進めて行くべき」との趣旨のご意見を述べられた。これに対して理事長から適切な応答がなされたが、「伝道者不足」が全国的に語られ無牧師教会・伝道所が徐々に増えつつある中で、伝道者の輩出と養成が急務であることは言うまでもない。しかし一方無牧師状態の折に教会は、信徒は、どのように教会形成に取り組んでいくのかは、深くバプテストの教会の教会形成の根幹に係わっているように思える。

会衆教会に於いては、礼典の執行や説教・祝祷などは、本来教会が持っている働きを牧師に委託するものであり、最初から牧師に付随しているものではない。牧師が不在の折にはそのオフィス（職務）は教会に戻され、教会が慎重に協議して特定の会員に委託してその機能を止めないことが重要だと考える。牧師がいることは望ましい。しかし不在の時こそ、バプテストの群れが歴史の中で継承してきた万人祭司の精神と自立した信徒のスピリットの質に立って、大切な働きを続けて欲しいと願っている。

ここ釧路とその周辺にはかつて約30の超教派の教会があったが、この30年の間になんとほぼ半減した。これは閉鎖・合併という名の消滅などによるが、これが将来のバプテスト諸教会の近未来図にならないことを祈っている。人口の減少や伝道者不足等々原因は様々だが、バプテストの群れは、牧師が不在になるとやがては消えてしまうような共同体ではなく、そのような折にこそ、バプテスト信徒の底力を発揮して難局を克服して行ってほしいと思う。

かつて私も「按手礼問題」で提起したように、「按手礼」とは、礼典執行権を付与する儀式ではない。礼典は本来、教会がどんな折にも執り行う権限と使命があり、牧師就任時に新しい牧師に委託するのであって、「牧師がいなくて、もう2年間も礼典をしていない」などと言う事は本末転倒である。今後暫くは無牧師教会の増加が見込まれる中、今一度我々の原点を振り返り、自己吟味しつつ体質転換していく絶好のチャンスでもある。